

# ごんた坂

第14号

(光陵高校同窓会会報)



〈発行所〉 神奈川県立光陵高等学校光陵会 〈印刷所〉 SALAT 株式会社 サラト

# 光陵



神奈川県立光陵高等学校

## 光陵会より、学校へ校旗・のぼり旗を寄贈しました

### 第14号会報発行に寄せて

光陵会会長 太田 秀和

世界的な金融危機が、今我々を巻き込んでいます。若い人達が夢とか目標を見つけにくくなっているのではないのでしょうか。

世の中がわかりにくくなると不変の価値が光を増します。その不変の価値を作り出す役割を果たしているのが、高校時代であると思います。高校時代に培ったすべてのことが、世の中に出た我々の財産です。

その中でも、光陵で身につけた「誠実さ、努力する姿勢」は我々卒業生の武器になっています。

社会人になり、57歳になった今、実感として「誠実さ、努力する姿勢」の大切さ、重さを感じています。

この2つは、どんな分野でも必要なものです。

プロ野球という特殊な世界でさえ、「若い時はセンス、中堅になると技術、ベテランは経験」と言いますが、そのベースには誠実さ、努力が不可欠です。

また、ありがたいことに、大切な仲間を光陵時代に得ることができました。働いている時も、折に触れて会い、楽しい時間を共有しましたが、リタイアした後も、会うことが楽しみな仲間達が居ることはたいへんありがたいし、心強いです。

この光陵会を実際に運営しているのは、若いボランティアの卒業生です。彼らの相談相手になっているのは、卒業して10～20年の社会の一线で働いている仲間達です。

彼らのおかげで、この光陵会が維持できていることから感謝しています。

### 進化形高校「光陵」

校長 鈴木 俊裕

光陵会の会員の皆様、常に変わらぬ本校へのご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。

また、今年度は、光陵会より、「校旗・のぼり旗」をご寄贈いただき、ありがとうございました。今後、式典や学校行事を中心に活用させていただきます。

さて、皆様もご承知のように、現在光陵高校は、「連携型中高一貫校」、「学力向上進学重点校」、「キャリア教育拠点校」等の指定を受け、神奈川県立高校として全国的にも注目を浴び、今までどこの高校も経験したことのない、全く新しい地平に立っています。これからも、目の前に広がる地平を豊かな大地にすべく、現状に甘んじることなく、改革のフロントランナーとして、進化し続ける高校として、諸課題をクリアし県立高校の先導的な役割を果たすよう、本校に課せられた期待に応え、使命を果たしたいと思っております。

どうかこれからも、明日を担うリーダーを育成し、神奈川県に並びない名門校として聳え立つ日に向けて、前を向いて一歩一歩、歩みを止めることなく進んで参りますので、今までにも増してご協力ご支援していただけますようよろしくお願いいたします。

がんばれ！光陵生！

贈 光陵会

# 平成21年度 光陵会総会・懇親会のご案内

## 総会・懇親会の開催時期変更

今年度から会期の変更に伴い、光陵会総会・懇親会の開催日程が大幅に変更になります。今年は6月6日(土)に開催することに決定いたしました。総会は今年度も、例年大好評をいただいております母校、光陵高校で開催いたします。ぜひこの機会に母校を訪れ、高校時代を思い出してみたいはいかがでしょうか。

## ☆1期、6期、11期、16期、21期、31期の皆様へ☆

今年、卒業40年、35年、30年、25年、20年、10年を迎えられる1期、6期、11期、16期、21期、31期の皆様には「卒業アニバーサリー期」として特にお集まりいただきたいと考えております。当時担任をされていた先生方にも、ご出席していただく予定です。お世話になった先生方を囲み、思い出話を花を咲かせてみてください。

### 2次会に同期会・クラス会を開こう！

2次会に同期会・クラス会を開くのはいかがでしょうか？ぜひ年に1度のこの機会に同期会・クラス会を開いてみてください。光陵会では同期会・クラス会を行うためのサポートを行っておりますので、お気軽にご相談ください。

### ワークピアにて懇親会開催

総会終了後、タクシーで（光陵会でご用意いたします）ワークピア横浜に移動し、懇親会を行います。同期の友人との再会はもちろんのこと、様々な世代の光陵高校の卒業生との出会いがあるはず。多数の会員の皆様のご出席を心からお待ち申し上げます。

## 特別講演 ～阿修羅のひみつ～

今年度の総会では、4期の卒業生であり、仏像研究の第一人者である山本勉様に講演をお願いいたしました。『阿修羅のひみつ』と題して、仏像の魅力についてお話をいただきます。貴重な講演ですので、ぜひ足をお運びください。

奈良・興福寺の、国宝に指定されている阿修羅像のことは、多くの方がご存じだと思います。昨今の仏像ブームの中でも、とりわけ人気のある仏像です。この像は目下、東京国立博物館の「国宝阿修羅展」で公開中（6月7日まで）。大勢の観客が押し寄せています。阿修羅とはいったいどんな仏像なのでしょう？そして、阿修羅像の印象的な表情は何を意味しているのでしょうか？そんなことを、なるべくわかりやすくお話したいと思います。

講師紹介 山本 勉

第4期生。清泉女子大学文学部教授。東京国立博物館名誉館員。日本彫刻史専攻。



- 総 会（決算・予算案審議、役員承認、特別講演等）  
日時：平成21年6月6日（土） 14：00～（13：30より受付）  
会費：無料  
場所：「光陵高校 視聴覚室」（横浜市保土ヶ谷区権太坂1-7-1）  
※上履きは各自でご持参ください。

- 懇 親 会  
日時：平成21年6月6日（土） 17：30～（17：00より受付）  
場所：ワークピア横浜（横浜市中区山下町24-1）  
会費：一般料金 …… 7,000円 特別料金（現旧職員） …… 5,000円  
（ご 夫 婦） …… 10,000円  
（学 生） …… 1,000円

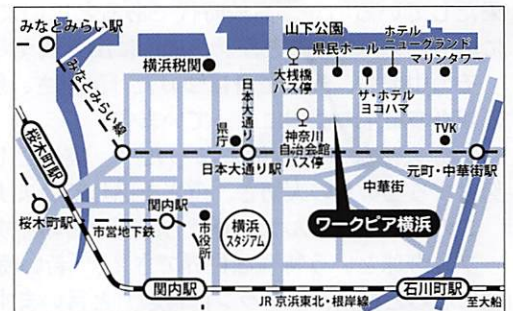
※特別料金（ご夫婦）はパートナーが光陵高校の卒業生でなくても結構です。  
※高校生以下のお子様は無料ですので、ぜひご家族でお越しください。  
※ご不明な点がございましたら、光陵会ホームページまたは下記メールアドレスまでご連絡ください。

URL：http://koryokai.jp/ MAIL：staff@koryokai.jp

お手数ではございますが、ご都合の程を同封のハガキにて5月25日(月)までにご投函ください。また、当日の飛び入り参加も歓迎いたします。その場合、上記のアドレスまでご連絡いただければ幸いです。

なお、当日駐車場をご用意しておりませんので、お車でのご来場は固くお断り申し上げます（光陵高校から懇親会会場までの交通手段は光陵会がご用意いたします）。

### ☆ワークピア案内図☆



### ☆アクセス方法☆

- みなとみらい線 日本大通り駅3番出口 徒歩2分
- JR根岸線 関内駅南口 徒歩15分
- JR根岸線 石川町駅北口 徒歩13分
- 横浜市営バス 26系統・大枝橋下車
- 8・58・125系統・神奈川自治会館前下車

## 特集

# 総会パネルディスカッション

今回の特集は昨年の総会后、「中・高・大連携型教育」をテーマに実施されましたパネルディスカッションの様をお届けいたします。

なお、以下の方々のお名前を文章中では敬称を省略させていただきます。

写真右側より

パネラー：横浜国立大学 教授  
同大学教育人間科学部  
附属横浜中学校  
校長 高木展郎様(1期生)

パネラー：神奈川県立光陵高等学校  
校長 鈴木俊裕様

パネラー：光陵会会長 太田秀和(2期生)

司会者：光陵会副会長 大道正夫(4期生)



**司会者**：それではパネルディスカッションを始めさせていただきます。本日のテーマは少々堅いテーマとなりますが、光陵高校の中・高・大連携型教育についてとなります。概要について鈴木校長、ご説明ください。

**鈴木**：詳しい内容については本日配付されております、「実施計画案(※)」をご覧ください。概要として、まず、連携型とは何かという点ですが、国立中学校と県立高校など、異なる設置者による中学校と高校が、教育課程の編成や教員・生徒間交流等の連携を深める形で中高一貫教育を実施することを言います。

次に、連携型教育の特色ですが、「安定した環境の中で6年間学校生活を送ることができる」、「6年間計画的・継続的な教育課程を展開することができる」、「6年にわたり生徒を把握でき、個性の伸長や優れた才能を発見できる」、「学年の異なる生徒同士が共通の活動を通し社会性や豊かな人間性を育成できる」という点があります。つまり、6年間を接続し、学校生活において、計画的・継続的な教育活動を展開し、生徒の個性や創造性を伸ばすことが可能となります。

実は今回のような国立大学と県立高校との連携は全国で2例目になります。和歌山に先行事例がありますが、成果が出ていないのが現状です。ですが、この神奈川モデルをぜひ成功させて、「神奈川に光陵あり」というようにしていきたいと思えます。

この神奈川モデルの目指すべきところですが3点あります。1点目は、「リテラシー(これからの社会をよりよく生きるための幅広い能力)」の育成を重視した教育展開を進めるための「かながわの中等教育の先導的モデル」づくりの推進をしていくことです。2点目は、中・高の6年間を通じた、生徒一人ひとりの個性を生かし特性を伸ばす教育の展開に資するため、「かながわの中学校教育・高校教育の先導的モデル」となる教育展開の実践研究を推進すること。3点目は、教育展開にあたっては、「リテラシー」を身に付けた、次代を担う人材を育成することを目的とした教育を進め、中・高の6年間を見とおした系統的な教育展開を図ることです。それによって、「生徒が希望する進路の実現、確かな学力向上を目指すための個に応じた教育の展開や特色づくりの推進」をし、「中学校・高等学校への先導的モデルの提供」をするという効果が期待されます。

附属中からどのように光陵高校につなげるのかという点ですが、附属中を「個性探究期」、光陵を「個性伸長期」とし、6年間を大きく4つに分け、中学生生活を「発見」、「探究」、高校生活を「充実」、「発展」とし、全体として人間科学を基礎としてリテラシーを育成していきます。このために、あらゆる活動を附属中と共に連携をしていき、交流を深めているところであります。

(※)「県立高校改革の新たな対応への取組みについて一中・高・大連携によるこれからの教育実践モデルの構築」

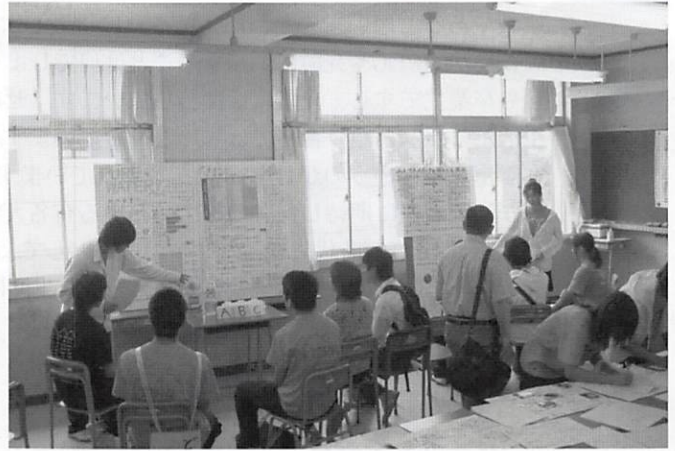
<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kokokojoiku/kenritu/syorai/syorai/menu.files/torikumi-j.html>

**司会**：中学側の立場から、高木校長、補足をお願いします。

**高木**：みなさん、勉強ができるとはどのようなことをいうのでしょうか。今、日本の学力観が変わりつつあります。私はペーパーテストが不得意でした。授業は面白くないし、高校時代に何をやろうかと悩みました。そこで思い立ったのが岩波文庫の赤本を100冊読もうということでした。これは1年生のときにほぼ達成しましたが、実はそれが今役に立っています。この経験によって、今一番何が役に立っているか実感したかという「考えられるという



中高合同総合的な学習の時間発表会(光陵)



を最近よく耳にするとおもいます。これは何かを受信して、考え、それを発信するという事です。これは意見が言えるということです。今までは、覚えてそれをペーパーテストに正確に再現するというのが学力だと思われていたのが、リテラシーというのに置き換わってきています。当然、前提としての知識は身につける必要はあります。それをやりつつ、その次の活用する学力として附属中の生徒たちには考える、伝えるというのを実践しています。最近多いのは、説明をさせるということです。先生は解説しない。わからない生徒は解説ができません。いかに人に説明できるかを評価しています。表現活動というもの、これが中学で行っているリテラシー教育です。

**鈴木**：光陵高校では、1教科ではなく教科をまたがって、習得・活用・探究という捉え方で実践しています。考えるための素材・知識は当然必要です。我々はただ表面だけの考える力ではなく、引出しを1ではなく、10作ってあげられるような知識の習得をさせています。その上でどの知識を使えば今回の問題が解けるのか。それを考えさせています。光陵は3大行事、体育祭、文化祭、学芸音楽祭があります。これは生徒が主体的にやっています。これも「育成」というスタンスでいるのが大事なことです。職員がやれば10分でできることも生徒たちが考えた結果で40分かかってもらせるといふ方針です。光陵の校長として考えるという力だけではなく、身につけるべき知識はしっかりと身に付けさせます。例えば東大の入試問題にも、「円周率が3.05よりも大きいことを証明しなさい」といった、暗記や知識ではなく、考える力を試す問題が出てきています。これを解くための力というのはなかなか教えられません。多面的、多学的に考える力というのが必要です。そのために、光陵高校ができることは様々な場面で経験を積むことによって考える機会を与えることです。

**司会**：太田会長は光陵の伝統をこれから作り上げなくてはならないという時代に入学をしました。これは自分たちで考えることの良い経験ができたと思います。

**太田**：伝統のないというのが2期生の現状でした。光陵の良さというのは、優秀な人がたくさんいて、その人たちが無償で働く、ボランティアという精神を持っていたことだと思います。今の時代に必要とされている優秀さというのは、当時すでにそのような人材が光陵では育っていたのだと思っています。

**司会**：キャリアガイダンスという学校主催の進路指導イベントを光陵会は支援しています。キャリア教育というのも今後の重要なテーマとなると思います。これについてお話をお伺いします。意義や、今後の展望というもお聞かせください。

**鈴木**：キャリア教育というのは、以前は勤労観を教育するというものが主でした。元来、進学校ではあまり行われていませんでした。しかしながら、現在、キャリアという言い方をした場合、単なる進学・就職ということではなく、もっと大きな意味で捉えるようになってきました。自分が生きていく中で、どのようにキャリアをとらえ、どのように進学していくのか。そういったことを考えさせる必要があります。これを一人ひとりが自分に問いかけていくのがキャリア教育であると思います。キャリアガイダンスというものだけではなく、教科の中や様々な学校行事の中でも実践できると思います。我が校はキャリア教育実施モデル校という指定を受けました。実際には、進路ガイダンス、キャリアガイダンスを実施しています。特にキャリアガイダンスは卒業生の協力のもとに運営されています。これは非常に良い取り組みだと思います。大学を選ぶ基準がただ偏差値というものだけであると、大学進学後に自分のやりたいこととのギャップを感じると思います。しかし、こういうキャリアガイダンスという取り組みで卒業生から直接お話を聞ければひとつの疑似体験となって、学生には良い経験となっていくと思います。

**司会**：高木先生、リテラシーの育成という中で、キャリア教育もその要素の1つだと思いますが。

**高木**：キャリア教育というのは生徒にとって2つの意味があります。ひとつは今の自分を外から見つめなおすということ。もうひとつは生徒たちの未来という観点です。自分がこれから生きていく中で、体験を通して今を知る、体験を通して未来を知る、というのがキャリア教育の重要な意義だと思います。

**太田**：皆さん、社会に出ているいろいろな思いを持っていると思います。ぜひ後輩にこういう場でその熱い思いを伝えてほしいですね。自分のことでなくても、仲間に尊敬できる人がいたと思います。それをぜひ伝えて頂きたい。私たちは高校生とは世代が離れてきていますので、これはぜひとも若いOB/OGに積極的にやってほしいと思います。また、世の中には様々な職種があります。色々な人がこの取り組みに参加して、高校生に語って頂きたいと思います。

**司 会**：世の中は色々と過渡期にあると思います。ですので、こういった連携の話もあるのだと認識しています。難しい挑戦であると思いますが、あえてこれに挑戦しようとしてらっしゃるのが今日いらして頂いている両校長です。両校長がOB/OGや光陵に期待することは何でしょうか。

**高 木**：私も卒業生ですし、光陵には期待しています。ぜひ附属中から多くの生徒が光陵に進学し、卒業して「良い高校生活だった」と語り合ってほしいと願っています。ひとつ光陵に期待したいのは、現在、神奈川県より学力向上進学重点校というのが10校ほど指定されています。それぞれの学校がそれぞれの特色を出そうとしていますが、私が光陵高校に期待したいのは、いわゆる有名大学に何人入れたというのではなく、高校時代がいかに充実するか、そして高校時代にやった学習の成果として、大学に進学してほしい。高校時代にいわゆる受験学力ではなく、探究することを通して、自分を磨き、それが生涯にわたる学力として育成されていくことを期待しています。

**鈴 木**：4月の校長就任以来、光陵の生徒をつぶさに見てきました。生徒たちはやはり優秀だと感じています。しかし、私が高校時代に感じていた光陵生のイメージよりも、能力は持ってはいるけれども、それを活かしきれていないと感じています。まだまだ不足してはいけないことはたくさんあると思っています。リテラシー教育を推進することは受験を度外視しているとは思いません。リテラシーを徹底的にやるということは今まで以上に受験に必要な知識を教えることだと思っています。また、生徒がある大学に行きたいという思いに対して、高校はその生徒がその大学に入れるために、徹底的にサポートをしていきたいと思っています。

**太 田**：私が西武ライオンズに移った際に、何がミッションだったかという、球団を変えるということでした。変えるというのはものすごくエネルギーが必要になります。改革をする最先端にいる人というのは矢面に立たなくてはなりません。ぜひ両校長には御苦労は多いと思いますが、信念を持ってぜひ新しい一貫教育を推し進めてほしいと思います。私は中学、高校で人間性の根源を養いました。ぜひ今後も素晴らしい生徒を送り出してほしいと思います。

## 2008年度総会議事のご報告

遅ればせながら2008年11月29日に行われました2008年度の総会のご報告です。今年度から春に開催されます総会ですが、2008年度総会では、決算・予算案審議、役員承認の他、会期の変更はじめ大幅な会則の改正など、会員の皆さまにも関わりのある決定がなされております。紙幅の都合上要点のみとなりますが、御一読ください。

### ①幹事会開催頻度の変更及び役員会の創設

これまで年2回春と秋に行われていた幹事会を年1回以上とし、新たに役員会を創設します。役員会とは、会長・副会長・理事・監査・事務局と、後述する委員会の委員長及び副委員長からなる評議会です。これを年1回行い、近年多様化してきた光陵会事務に柔軟に対応します。

### ②委員会の創設

光陵祭や校歌祭など新しい行事への参加に伴って事務内容が多様化してきたので、事務の分化を図り円滑で迅速な運営を目指します。各委員会は委員長1名と副委員長数名をおくこととし、事務局及びその他の役員との復任を妨げません。

### ③会計年度の変更

秋季に行事が集中していることから、総会を春季に移行します。

それに伴って、今まで毎年8月1日から翌年7月31日までだった会計年度を、3月1日から2月末日までとします。

### ④学校への寄付金

「母校のためにもっと何かできないだろうか」という意見をいただき、総会に出席くださった方々と検討いたしました。

議論の結果、予算に寄付金枠を設け、学校に寄付・寄贈をすることとなりました。

今年度は、校旗・のぼり旗を寄贈しました。

これらのほかにも、私たちの光陵会を改善しようと、多くの意見が飛び交い、今回の総会はとても充実した議論の場となりました。

次回の総会は、2009年6月6日(土)です。みなさん総会に足を運んでいただいて、よりよい光陵会を作っていきましょう。

### 光陵会賛助金芳名簿

この度、光陵会運営のため賛助金を募りました。以下の通り、皆様の温かいお心遣いをいただきましたことを深く感謝いたしますとともに、ここにご報告いたします。

今後も引き続き、ご支援ご協力をお願いいたします。(以下、敬称略)

佐藤 俊哉 (9-5) 高藤 忠明 (10-6) 安嶋 裕美 (15-2) 佐川 琢円 (17-8)

**【総会時に賛助金をいただいた方】**

高木 展郎 (1-1) 太田 秀和 (2-2) 石川 康子 (4-1) 大道 正夫 (4-1) 山本 勉 (4-1)  
 田中 博之 (4-2) 川越 桂 (5-2) 大濱 信宏 (6-4) 橋本 和彦 (6-4) 田沼 光明 (7-1)  
 中濱こずえ (9-4) 小檜山智久 (10-4) 佐藤 竜太 (15-7) 常光 康弘 (27-4) 田中 信次 (30-1)  
 長谷川達彦 (30-1)

2007年度決算		2008年度予算	
(収入の部)		(収入の部)	
入会費・終身会費	2,349,475	入会費・終身会費	2,300,000
懇親会会費	383,000	懇親会会費	400,000
賛助金	68,805	賛助金	40,000
名簿売上	28,000	前年度繰越金	16,051,304
その他	45,639		
前年度繰越金	15,883,488		
合計	18,758,407	合計	18,791,304
(支出の部)		(支出の部)	
通信費	1,017,278	通信費	1,060,000
印刷費	641,433	印刷費	650,000
事務費	9,508	事務費	10,000
運営費	441,921	運営費	350,000
交通費	115,890	交通費	70,000
懇親会費	467,701	懇親会費	450,000
H P 運用費	13,372	H P 運用費	30,000
		校歌祭費	60,000
		高校寄付費	200,000
合計	2,707,103	合計	2,880,000
収支差額	16,051,304	収支差額	15,911,304

2008年度光陵会役員	
会長	太田 秀和 (2期)
副会長	大道 正夫 (4期)
	山本 勉 (4期)
理事	古藤田 謙治 (5期)
	藤原 真人 (22期)
	柿崎 祐一 (25期)
	関口 慎吾 (33期)
監査	上原 武 (25期)
	高橋 芳昌 (33期)
事務局長	萩原 史織 (38期)
副局長	藤原 直人 (31期)
	金子 周平 (38期)
会計	関口 陽介 (38期)
会計補佐	増田 祐徳 (36期)
	播口 陽介 (36期)
書記	山田 悠 (35期)
	倉島 悠子 (38期)

2009年度光陵会役員 (案)	
会長	太田 秀和 (2期)
副会長	大道 正夫 (4期)
	山本 勉 (4期)
理事	古藤田 謙治 (5期)
	藤原 真人 (22期)
	柿崎 祐一 (25期)
	高 椋 敬之 (31期)
	藤原 直人 (31期)
	関口 慎吾 (33期)
監査	播口 陽介 (36期)
	上原 武 (25期)
	高橋 芳昌 (33期)
事務局長	佐藤 愛美 (36期)
	小西 直子 (35期)
副局長	金子 周平 (38期)
	萩原 史織 (38期)
	石井 清孝 (41期)
	柘植 貴之 (41期)
	鞠子 友花 (41期)
	山本 藍子 (41期)
会計	増田 祐徳 (36期)
会計補佐	志田 真澄 (35期)
	関口 陽介 (38期)
	中島 佳亮 (41期)
書記	山田 悠 (35期)
	倉島 悠子 (38期)
	南 雲 優 (41期)

2008年度決算 (2008/08/01 ~ 2009/02/28)		2009年度予算(案) (2009/03/01 ~ 2010/02/28)	
(収入の部)		(収入の部)	
入会費・終身会費	2,240,000	入会費・終身会費	2,300,000
懇親会会費	555,000	懇親会会費	400,000
賛助金	90,000	賛助金	40,000
名簿売上	16,000	前年度繰越金	16,417,571
その他	11,428		
前年度繰越金	16,051,304		
合計	18,963,732	合計	19,157,571
(支出の部)		(支出の部)	
通信費	991,008	通信費	100,000
印刷費	559,055	印刷費	100,000
事務費	21,678	事務費	10,000
運営費	133,829	運営費	350,000
交通費	31,120	交通費	70,000
懇親会費	518,211	懇親会費	450,000
H P 運用費	29,076	H P 運用費	30,000
校歌祭費	62,184	校歌祭費	60,000
高校寄付費	200,000	高校寄付費	200,000
		設備予備費	300,000
合計	2,546,161	合計	1,670,000
収支差額	16,417,571	収支差額	17,487,571



毎年賛助金のお願いをしております。2008年8月1日から2009年2月28日までに総計90,000円もの賛助金をいただき、役員一同皆様のご理解とご協力に感謝しております。このことにつきましては光陵会運営資金残高が1,000万円を超えていることから、さらに賛助金を募ることは疑問であるとの貴重なご意見もいただきますが、光陵会は年会費ではなく終身会費による運営を行っているため、近年の少子化に伴う生徒数の減少により財政が逼迫し、長期的な会の存続が懸念されています。そのため、今年度も引き続き以下のように会員の皆様から賛助金を募ることにいたしました。何卒、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

なお、お振込みの際は期・お名前を明記していただきますようお願いいたします。

1. 金額 1口 1,000円 何口でも構いません
2. お支払方法 横浜銀行緑園都市支店 口座番号：367-1187951  
名義人：光陵会

## 同窓会名簿作成について (2010年5月発刊予定)

2004年に名簿を発刊しまして、早5年の月日が経とうとしております。この間、37～41期生が光陵会に新たに加わり、会員総数も11,000名を超える組織となりました。

昨年度まで名簿管理を委託しておりました(株)アーツが新規の名簿発刊業務を行わないこととなり、十分な検討を重ねました結果、この度、(株)サルトと名簿管理委託契約を結びました。(株)サルトは全国の高校の同窓会を始め、多くの実績を有し、プライバシーマークを取得している専門会社です。

新規の名簿は2010年5月の発刊を予定しております。新規発刊に伴いまして、住所調査を実施いたします。今回の会報には予備調査としまして、住所不明となってしまう会員の方々の情報を提供していただきたく、調査ハガキを同封させていただきます。今後、8月と10月には住所調査ハガキ(右図参照)を(株)サルトより送付いたします。また、専用のWebサイトも開設する予定です。会員の皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。なお、詳細につきましては、光陵会公式ホームページ (<http://koryokai.jp/>) でも提供しております。どうぞご覧ください。



## キャリアガイダンス報告

平成21年3月7日(土)、光陵高校にて卒業生による「キャリアガイダンス」が行われました。今年で4回目を迎え、講師には4期から33期まで年代・職種を超えて21名の方にご協力いただきました。生徒は45分間ずつ2人の講師の授業を受け、新たな世界に触れ、興味をわかせていました。将来を見つめなおす良い機会になったのではないのでしょうか。また、各講師の方々のご自身の仕事に対する熱い思いや誇りを感じることができ、このような先輩方とつながりを持つことの素晴らしさに改めて気づくことができました。

講師派遣の母体となる「光陵卒業生人材バンク」への登録は随時受け付けております。ご協力いただける方は下記の連絡先までご連絡ください。

登録・お問い合わせは  
光陵高校内 光陵会  
(〒240-0026 横浜市保土ヶ谷区権太坂1-7-1)  
もしくは  
光陵会副会長 4期 大道正夫  
(omichim@nifty.com) までお願いいたします。

## 同窓生向けSNSのお知らせ

光陵会では卒業後の交流の場として同窓生向けのSNSを運営しています。加入希望、お問い合わせはこちらへお願いいたします。

URL : <http://www.koryo.gr.jp/sns/>  
mail : [koryo-kai-request@koryo.gr.jp](mailto:koryo-kai-request@koryo.gr.jp)  
運営 : 光陵会メーリングリスト (koryo.gr.jp)

## あ と が き

中・高・大連携についてのパネルディスカッション特集、いかがでしたか。会期の変更に伴い「ごんた坂」も春に引越しです。春といえば別れと出会いの季節。新たなスタートを切った皆様と総会・懇親会でお会いできるのを楽しみにしています。また、光陵高校の情報をお届けするため、光陵会Webサイト (<http://koryokai.jp/>) を開設し随時更新しております。こちらも是非ご覧ください。

会報の発行に当たり多くの方々にご協力いただき、心より感謝申し上げます。会員の皆様のご多幸をお祈りしつつあとがきに代えさせていただきます。